

Title	日本の自動車部品企業の経営構造に関する研究-系列か独立か-
Sub Title	
Author	植田, 敏司(Ueda, Satoshi) 許斐, 義信
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2008
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2008年度経営学 第2297号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002008-2297

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	許斐 研究会	学籍番号	80730182	氏名	植田 敏司
(論文題名)					
日本の自動車部品企業の経営構造に関する研究 -系列か独立か-					
(内容の要旨)					
<p>米国完成車企業は、伝統的な部品の内製化をやめ、部品部門を分社化した。完成車企業と部品企業との関係は、欧州企業に代表される独立型と日本企業に代表される系列型に2分された。</p> <p>しかし、日本の自動車部品企業は、資本関係に基づく単純な系列型企业が多数を占めているかという、決してそうではない。資本関係はあっても独立性を主張する部品企業も存在している。もしも独立型企业が優れた業績を上げているようであれば、部品企業は系列型を脱し、独立型に移行すべきである。</p> <p>以上のような問題意識に立ち、独立型と系列型の企業間で、企業規模や収益性といった指標にどのような差異が認められるかについて分析する。果たして、独立型が望ましい経営スタイルと言えるのであろうか。また、その場合、独立型にみられる特徴から、どのような要因が部品企業の独立化に影響を与えているのかについても分析する。</p> <p>分析に先立ち、完成車企業と自動車部品企業との関係性について、資本関係の有無という1軸に基づく分類は現実の部品企業の実態に即したものは考えられないことから、別の評価軸として完成車企業に対する取引依存度を用い、既存部品企業の分類化を行った。</p> <p>さらに、各分類について“代表製品の標準品化度”“企業規模”“収益性”“競合関係”“取引関係”という5つの指標を用いた分散分析を行い、分類間にどのような差異・特徴がみられるかを分析した。</p> <p>分析の結果、非依存型非系列企業であるほど代表製品の標準品化が進んでおり、また、取引先が分散していることが明らかとなったが、一方で、企業の収益性に関しては非依存型非系列企業であるほど優れているということは証明されなかった。</p> <p>そこで、非依存型非系列企業を対象としてクラスタ分析を行い、非依存型非系列企業に分類された部品企業をさらに再分類化することで、それらにどのような特徴が見いだせるかを分析した。分析にあたっては、分散分析で用いた指標と同様のデータに加え、個別企業の製品特性や企業の背景といった定性的側面についても触れ、再分類された企業群についての考察を行った。</p> <p>以上の分析を受けて、自動車部品企業の経営問題に対し、以下の結論を導出した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 技術力主導型の自動車部品企業にあつては、非依存型非系列企業を目指す 2. 際立った技術力のない部品企業であっても、標準品化の進んだ部品を取り扱う企業にあつては、水平統合・取引先の分散化等により規模の効果を享受することが可能であるため、企業規模拡大に伴う非依存型非系列企業を目指す 3. 上記1, 2に該当しない部品企業にあつては、完成車企業の系列下に入ることで、特に持分法適用会社になることで、完成車企業から部品企業の業績に対するリレーションが高まることが期待されるため、部品企業は収益性が高まることから、取引依存型系列企業を目指す <p>但し、2008年現在進行中の自動車産業の減産・減収局面によって、本論文で行った分析結果が大幅に変動する可能性があることに注意が必要である。</p>					
以上					